

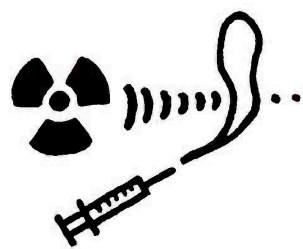
8月末、放射線治療を受けた患者さんとお話しする機会がありました。お相手は都内で会社を経営する65歳の男性です。2年前、東大病院で前立腺がんの治療を受けました。

放射線を前立腺だけに集中させる「定位照射」という方法で、たった5回の通院で治療は完了しました。1回の照射時間も世界最短レベルのわずか80秒です。従来は週5回、全部で38回の治療でしたから、2カ月もの通院が必要でした。

放射線治療の回数を減らすということ、1回当たりの照射量を増やすことにつながります。しかし、たくさん放射線をがんの病巣に照射すれば、周囲の正常な臓器に

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

放射線治療手術と同じ治療率

れている「Space OAR
ハイドロゲル」です。

まず、治療を始める前に、
ハイドロゲルを前立腺と直腸
の間に注入します。このゲル
は約6カ月間、体内に留まり、
直腸と前立腺の間に約1センチ
のスペースをつくります。そ
の結果、直腸の線量を大幅に
下げることができます。その
後、ゲル剤は吸収されて自然

も放射線が当たってしまつこ
とになります。

前立腺がんの場合、前立腺
のすぐ後ろに接している直腸
への照射量をいかに減らすか
がポイントになります。前立

腺がんに対する放射線治療
で、直腸の線量を大きく減ら
すことができる手段が米国で
開発されています。我が国で
も2018年6月から保険適
用され、全国で使用が開始さ

に消えてしまいます。
今回対談した患者さんも、
このハイドロゲルを使った定
位照射を受けました。まわり
に、前立腺がんを診断され、
手術や従来型の放射線治療を

受けた方が何人もいるなか、
この治療を受けることができ
て本当にラッキーだったと言
っていたいただきました。
社長業を休むことなく、仕
事の合間に治療を受けること
ができ、すぐに仕事に戻れた
こと、治療から9年たった今、
再発もなく、毎日元気に生活
できていることなどを語って
いただきました。治療に携わ
った医師としても、とてもう
れしい言葉でした。

前立腺の他、多くの臓器の
がんで放射線治療は手術と同
じ位の治療率をもたらしま
す。しかし、この治療を受け
る患者数は欧米の半分程度で
す。放射線治療の恩恵がもつ
と広がることを期待していま
す。(東京大学病院准教授)